

平成29年度各種調査等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	沿岸南部	学校名	大船渡市立赤崎小学校	TEL	0192-26-3625
------	------	-----	------------	-----	--------------

校内研究と学力向上の取組を連動した組織的な授業改善

【今年度の目標】

- ・各教科における正答率50%未満の層の減少（30%未満は0に）、同80%以上の層の増加
- ・算数における観点「数量や図形についての技能」の正答率が県平均を上回ること
- ・テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間2時間以下層の増加

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

1 教師意識改革

- (1) CAPD サイクルを意識した組織的な取組
- (2) 校内研究と連動した授業改善の取組

2 家庭意識改革

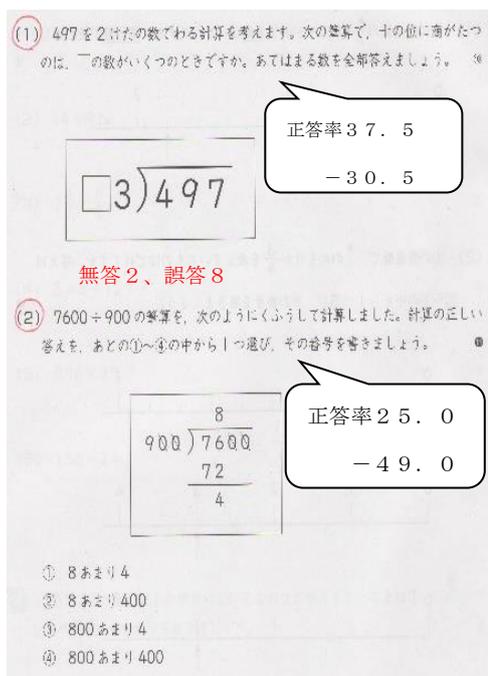
- (1) まなびフェストを活用しての家庭学習環境の改善への取組
- (2) 家庭学習回覧ノート導入による家庭学習内容の改善への取組

【具体的な取組】

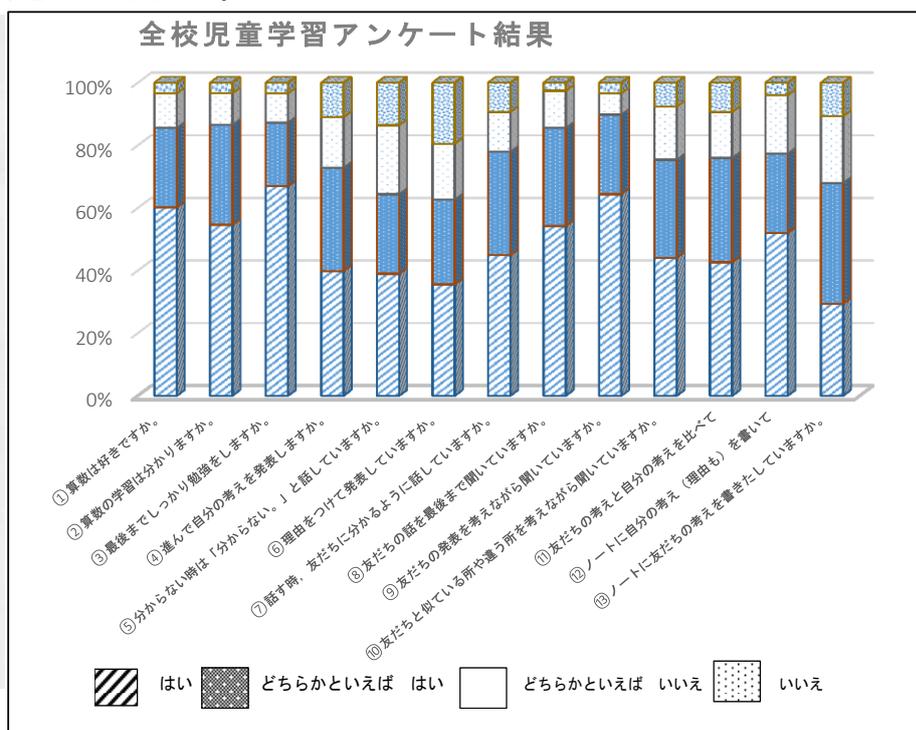
1 教師意識改革

(1) CAPD サイクルを意識した組織的な取組

昨年度の全国学調・NRT・県学調で落ちている問題の具体的分析【図1】とともに、今年度意識調査【図2】を行い(Check)、本校の課題を明確にし、学力向上の取組の見直しを図った。(Act)年間計画立案の際に、学校と家庭の両面からの取組を考え(Plan)家庭への周知に努め、連携しながら実践した。(Do)計画に従い全校で取組ながらも学期ごとに振り返り(Check)、改善を図りながら(Act)計画を共通理解し学校・家庭一体となり実施した。



【図1】昨年度の県学調分析



【図2】6月実施の意識調査

	実施諸検査取組	学力向上取組（全校児童）	学力向上取組（家庭）
4月	NRT 全国学調	発表の仕方揭示 家庭意識改革1	家庭学習のてびき配布 家庭学習回覧ノート
5月	問題を解く（校内研究会）分析・回復指導	意識調査実施 活用問題チャレンジ（しおかぜT）	研究だより発行（月2回）
6月	Q-U実施	計算強化週間 第1回計算大会	計算プリント学習（ノーメディアデー）
7月	学級指導		家庭意識改革2
8・9月		活用問題チャレンジ（しおかぜT）	
10月	県学調	意識調査実施 活用問題チャレンジ（しおかぜT）	
11月	学力向上視点からの授業研究会 分析・回復指導	計算強化週間 第2回計算大会	
12月		活用問題チャレンジ（しおかぜT）	計算プリント学習（ノーメディアデー）
1・2月	今年度の学力向上取組の成果と課題	計算強化週間 第3回計算大会	
3月	来年度の方向性検討		計算プリント学習（ノーメディアデー）

【図3】学力向上に関する実践計画書

分析結果から、本校の児童の課題となった活用問題へのアプローチ能力を高めるための取組を提案し、全職員共通理解のもと実践を行った。まずは、実態把握として、算数において、全学年チャレンジ問題【図4】と称して、理由を記述で答える活用問題に取り組んだ（教師意識改革1）。結果は研究会報で知らせ、職員全体で傾向を共通理解し、日頃の教育全般を通して「表現する力」の習得に努めた。2学期からは、週1回のしおかぜタイムの時間（15分間）を使って、記述式活用問題に全校で取り組んだ（教師意識改革2）。

また、国語においては、今回の県学調の結果より、長文の読み取りに課題が見られた。そこで、週末の家庭学習で長文プリントに取り組ませ、教務・研究主任が採点解説し、個別に指導した。さらに、放課後に全学年において、担任外による習熟度別指導を行った。

（2）校内研究と連動した授業改善の取組

研究においては、目指す児童像を「理由を明確にして説明できる子」と明確に設定し、「確かに理解できる子どもの育成」を研究主題に掲げ、学力向上に向けて、研究を進めた。

特に「確かな理解につながる学び合いのさせ方」を手立ての柱とし、研究授業の検証を進めてきた【図5】。

例えば、5年生の算数の授業研究会においては、県学調の課題となっている領域「図形」の定着を図るための手立てについて、研究部から分析結果を基にした指導の手立てを提案した。

平成23年（2011年）に行われたサッカー女子ワールドカップで、サッカー日本女子代表のなでしこジャパンが優勝しました。(1)ひろきさんは、ワールドカップ後のなでしこリーグ（日本女子サッカーリーグ）の試合の観客数が増えたのではないかと考えました。そこで、あるサッカー場で行われた平成23年のなでしこリーグの試合の観客数を調べ、下の表にまとめました。

	試合数（試合）	観客数の合計（人）	1試合あたりの観客数
ワールドカップ前	2	約 2200	約 1100
ワールドカップ後	3	約33000	約

ワールドカップ後の1試合あたりの観客数は、ワールドカップ前の1試合あたりの観客数の約何倍になっていますか。求め方を式や言葉を使って書きましよう。また、答えも書きましよう

【図4】6年生チャレンジ問題

- ① 確かな問題把握のさせ方《手だて1》
 - ・場面絵、関係図、数直線等の提示
 - ・ノートの活用 ・視聴覚機器の活用
 - ・既習事項の提示
- ② 確かな理解につながる学び合いのさせ方《手だて2》
 - ・学び合いの構想（構想図） ・意図的指名
 - ・機会の保障（交流学習）
 - ・説明の仕方の習得（学び合い表の活用）
 - ・視聴覚教材機器の活用（デジタル教科書等）
- ③ 理解習熟のための振り返りのさせ方《手だて3》
 - ・学習内容を取り上げた振り返りの時間確保
 - ・数学的表現の奨励 ・次時につなぐ記録の確保

【図5】研究内容

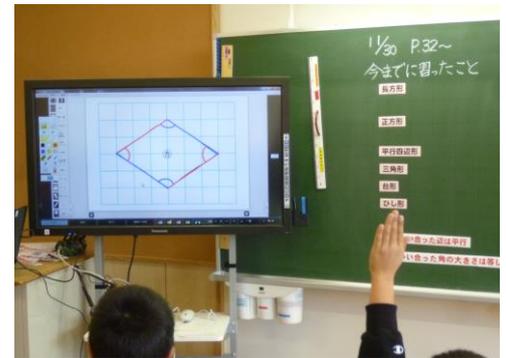
授業者は、その提案を基に、授業展開を検討し実践を行う、という取組を試みた。また、学習体系を習熟度別指導とし、各コース別に展開を考えた。研究会においては、各コースの手立てを考察したことで、具体的な課題が浮かび上がり、指導にいかすことができた【図6】(教師意識改革3)。

県学調の結果から授業改善を行った5年生の授業研より

★今年度の県学調の結果、図形領域では長方形や正方形の面積を求める問題の正答率は高かったが、ひし形の性質を活用しての作図やしきつめの図の問題の正答率が低かった。

課題	17	18	19	20	21	22	23	24
	ひし形の性質を利用した作図のしかたを考えることができる。	36.2	28.6				79.0	-7.6
	立方体の展開図がわかる。	80.5	90.5				112.4	9.9
	面積の求め方を理解し、求め方を立式することができる。	91.2	90.5				99.2	-0.8
	体積の求め方を理解し、求め方を立式することができる。	75.5	76.2				101.0	0.7
	複合図形の面積の求め方と体積の求め方を統合的に理解し、それらに共通する求め方を理解することができる。	48.6	57.1				117.5	8.5
	対角線で切ることができる三角形が合同になる四角形を理解している。	69.1	81.0				117.1	11.8
	ひし形の性質がわかり、しきつめの図を考えることができる。	51.8	28.6				55.1	-23.3
	1組の三角定規を組み合わせてつくった角度を、言葉と式で説明することができる。	79.8	85.7				107.4	5.9

5年「面積の求め方を考えよう」の単元では、4年生の学習内容である「ひし形の定義、性質」に



【図6】県学調の課題分析をいかした研究授

2 家庭意識改革

(1) まなびフェストを活用しての家庭学習環境の改善への取組

○基礎・基本の確実な定着を図ります。 【目標】単元テスト・計算大会：全員80点以上

【取組】少人数指導・TT指導・校内計算大会(年3回)・学力テスト等の分析・回復指導

○理由をつけて発表できる子どもを育てます。 【目標】学び合い・振り返りにおける学級全員の表現(発言・文章)

【取組】言語活動を重視し、一人一人の子どもに表現させる授業展開の工夫

連携

【家庭では】(家庭学習の手びき)

○毎日、家庭学習に取り組みませよう。(毎日音読・3年生以上家庭学習回覧ノート)

【めやす】1・2年・・・20～30分 3・4年・・・30～40分 5・6年・・・50～60分

○テレビやゲームの時間を決めて、家族全員で取組ましよう。(計算大会前日ノーマディアデー)

温かい学級経営

【図7】まなびフェスト「知」の取組

① 年3回の計算大会実施

計算力のアップと家庭での学習意識を高める目的で、年間3回計算大会を計画した。家庭環境の質を高めたいと考え、計算大会前日をノーマディアデーに設定し、呼びかけを行った(家庭意識改革2)。

家庭学習の手引

赤崎小学校

お家の方へ(以下の点についてご協力をお願いします。)

- 生活のリズムづくり・・・①早寝・早起き・朝ご飯の励行
- 学習のリズムづくり・・・学習に集中できる場所や見守り
- 学ぶ意欲づくり・・・①がんばりに温かい励まし

- 1 学校で学習したことをしっかり身につけます。(確かな力)
- 2 学校で学習したことを考えながら使い、次の授業に役立てます。(自学自習の力)
- 3 家庭で根気よく学ぶ習慣を身につけます。(学習の習慣化)

赤崎小の家庭学習

- ① 宿題(ドリル・プリント等)
- ② 一人勉強(一人勉強ノート)
- ③ 音読(週末読書)

学習にあたって

- テレビを見ながら、食べながら、話をしながらの学習はやめましょう。
- 時間を決めて勉強しましょう。

1・2年生(20分～30分)

宿題の仕方を身につけます。

【一人べんぎょうのれい】

- ・ひらがなやカタカナのれんしゅうをしよう。
- ・かん字れんしゅうをしよう。
- ・計算れんしゅうをしよう。
- ・きょうかしよをししゅうをしよう。
- ・ことばあつめをしよう。
- ・本のかんそうをかこう。
- ・九九のれんしゅうをしよう。
- ・日記や作文をかこう。

※2年生の後半から一人勉強が始まります。

3・4年生(30分～40分)

一人勉強の仕方を身につけます。

【一人勉強の例】

- ・きょうの学習をふりかえよう。
- ・漢字練習をしよう。
- ・計算ドリルをくりかえそう。
- ・辞典を使って意味調べをしよう。
- ・ことわざを調べよう。
- ・ローマ字を覚えよう。
- ・地名を調べよう。
- ・生き物や星座をくわく観察したり調べたりしよう。
- ・日記や作文を書こう。

5・6年生(50分～60分)

一人勉強の内容を充実させます。

【一人勉強の例】

- ・授業の復習をしよう。
- ・授業の予習をしよう。
- ・漢字や計算の練習をしよう。
- ・慣用句、難語句、新出語句を辞典で調べよう。
- ・公式や図形の性質、用語をノートにまとめよう。
- ・歴史上の人物について調べよう。
- ・学習したことを、言葉、絵、図、式、表、グラフなどを使ってまとめよう。
- ・文章を工夫して日記や作文を書こう。

☆校内計算大会をします。

6月27日(火) 11月28日(火) 2月21日(水)

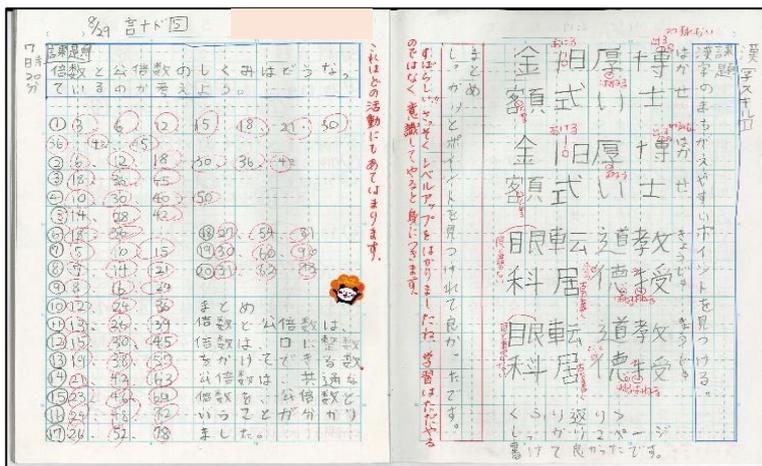
・計算の木に合格の花や実がつくようがんばります。(ノーマディアデー)

※3年生以上は「一人勉強リレーノート」に取り組みます。ノートを共有し、お互いの学習のよさを認め合うことを通して、共に学びを高め合うことを目的としています。

【図8】家庭学習の手引

(2) 家庭学習回覧ノート導入による家庭学習内容の改善への取組

4月には家庭学習の手引【図8】を配布し、意識化を図った。その後、3年生以上は毎日家庭学習回覧ノートに取り組んでいる。研究主任は、3年生以上の回覧ノートを毎日点検し、コメントを書いて渡している。お手本となる家庭学習は、提示や通信等で紹介している。2学期からは、さらに質を高める目的で家庭学習ノートにも授業と同じように自分で考えた学習課題を設定し、それに対するまとめを書くようにした【図9】。



【図9】家庭学習ノート

また、授業同様、振り返りをしっかり行うことで学習内容の定着を図っている（家庭意識改革1）。

このように、家庭の意識改革として心がけたことは「情報を発信する」である。学校での取組を知らせ、学校・家庭が一体になって、子どもたちの学力向上に努めていきたいと考えている【図10】。



【図10】保護者用研究だより

【成果】

- 今年度の5年生はNRT全国比平均で国語91.5 算数81と落ち込んでいる学級だが、CAPDサイクルを意識した組織的な取組を展開した結果、県学調の算数の目標に掲げた、数量や図形についての正答率は、100.4と県を上回った。（県学調算数全体 100.9）
- アンケートによる変容

アンケート内容	6月	11月	比較
算数の学習は分かりますか	103	112	9 ↑
理由をつけて発表している	74	104	30 ↑
友だちの発表を考えながら聞いている	106	111	5 ↑

- 11月の意識調査の結果、「理由をつけて発表している」「友だちの発表を考えながら聞いている」のポイントが6月と比較して高くなっていることから、学び合いの充実が図られていると思われる。
- 家庭学習回覧ノートは、「他の児童の内容を親子で見ることができて参考になります。」という保護者の声やテレビ・ビデオ・DVDの視聴時間2時間以下層が全校児童対象で6%上昇していることから、少しずつ家庭学習環境の改善が図られている。今後も家庭への発信を心がけ、学校と家庭との連携を強めていきたい。